



復刊第74号
題字 吉岡弥生

一年をふり返って

副会長 山崎倫子



永くきびしかった寒さもやわらぎ花屋の店頭は色とりどりの花で溢れ華やいだ春の気配が感じられます。皆様にはご機嫌麗わしくお越しのこととおよろこび申し上げます。

春の訪れとはうらはらに、一寸外に目を向けるときびしい事ばかり多うございます。大企業の倒産から中小企業に至る連鎖倒産、失業率の上昇、急激な高による経済不安、落ちこぼれ問題、非行青少年、特に性犯罪の増加、中学生の自殺増加傾向等々、胸の痛むことばかりです。社会の一員として、女性としてまた、医師として何か出来ることはないだろうかと考えさせられます。

月日の立つのは早いもので、京都での総会からもう一年近くが過ぎ、五月には五十三年度の総会を迎えようとしています。思いおこせば昨年八月、皆様のご協力によって国際会議を成功裡に終えることが出来ましたことは本当に幸せであつたと今さらのように感謝しております。

さてこの一年間は、定款と施行規則再検討のための協議に大変忙しい一年でした。昨年十月定款委員会が発足、山本杉先生が委員長に橋本恵美子先生が副委員長に選出されました。毎月第三土曜日に開かれることに決まりすでに六回の会合が持たれました。私も定款委員の一人として出来る限り出席してきました。北は仙台、南は福岡、高知、広島、大阪、名古屋、静岡、それに、神奈川、東京と各地から二十数名が集まり、毎

回四〜八時間にわたる討議が続けられてきました。長時間乗物を乗り次いで、あるいは午前中の診療を済ませての会合ですが、皆さん大変熱心に時間の立つのも忘れて議論を交しております。時には冷静さを欠いたり燃えたりしますが、終始笑いと協調を失わず和やかに運営されております。まだ皆様にお計り出来る段階に至っておらず、これからも回を重ねて充分検討してゆくことになっております。今回の総会で皆様にご協議願うには間にあいませんでしたが経過報告を致す予定になっておりますのでご了承下さいませ。

魅力的な、全会員の求める日本女医会像とは、皆様はどんなビジョンをお持ちでしょうか。それに近づくためにはどうしたら一番よいのか、抽象的でなく、具体的なご意見ご提案等、一緒に考え頂きたいとございます。

大切なのはビジョンと運営方法だと私は考えますが、いかなるものでしょうか。しっかり根を張って仕事をしたいのか、形式や形態をありませうが、要は具体的な運営をどうするかということ、かたよらない、こだわらない、とらわれない心でお互いを尊重し信頼してゆく心の持ち方ではないかと思うのです。皆様と一緒に日本女医会の発展を考えてゆきたいと思っております。次に、昨秋は前進座の総見を致しましたが皆様の絶大なご協力によってかなりの果実を生むことが出来

日本女医会誌(第七十四号)昭和五十三年四月二十五日

目次

一年をふり返って.....	山崎 倫子	1
第二十三回定時総会のおしらせ		2
学位取得者一覧表.....		2
定款委員の随想.....定款委員をお受けして.....	大西 保乃	2
定款委員をお受けして.....	川口 正子	3
定款委員としての雑感.....	小出つる子	3
Circular Letter No. 49.....	佐野アヤ子	3
連絡書記からのお知らせ.....	佐野アヤ子	4
随筆 ハワイの旅 その二.....	稲生 粟	4
日本女医会の実態調査報告書を上梓して.....	柳瀬 路子	5
一読をおすすめしたい詩集 細川宏遺稿詩集「病者・花」.....	久保田くら	6
昭和初期の日本女医会.....	橋本恵美子	6
事業部だより.....		7
議事録.....		7
事務局だより.....		10
編集後記.....		10

ました。本当に有難うございました。この果実は皆様のご協力に報いるようお計りして有効に使わしていただきたいと理事会でも話しております。最後に、皆様ご承知の通り八月二十七日から九月一日まで西ベルリンで国際女医会第十六回国際会議が開かれますが、日本からは百八十九人の参加がある模様です。学術講演には、藤田親代先生の「日本における医学的情報の誤解を招き易いマスコミの報道——子供の喘息と大気汚染」と、佐藤千代子、森川みどり、野村多賀子先生と山崎による「マスメデ

シアの中の新聞の役割と評価」の二つの演題を提出しております。現在マスメディアが持つ大きな影響力を考える時、「マスメディアと医療」はまさに時宜に合った興味深いテーマだと思えます。今回始めて日本語の同時通訳が採用されますが、参加なさる皆様にも喜んで頂けることと思えます。来る総会では、国立婦人教育会館館長、縫田瞳子女史の「婦人の生き方」と題する講演がございます。どうぞお誘い合せてご出席下さいませようご案内申し上げます。

社団法人 日本女医学会

第二十三回定時総会

のおしらせ

日時 昭和五十三年五月二十八日(日)
場所 京王プラザホテル
東京都新宿区西新宿二二二一
(電話〇三三四四〇一一一)

講演 午後一時—二時
テーマ 婦人の生き方
講師 縫田暉子先生

総会 午後二時—四時
会費 二、〇〇〇円
懇親会 午後六時—八時
会費 一〇、〇〇〇円

評議員会は同ホテルで午前十時より行います。
京王プラザホテルにお泊りの場合は〇三三四四〇二四七へ直接ご連絡しますと日本女医学会会員として割引料金になります。

定款委員をお受けして

大西保乃

東京の都心に住む身にとって、委員を受ける事は非常にたやすい事であった。しかし、東北、北陸、中国、四国、九州の先生方には、どんなにか決断のいる事であつたろうと思ふ。事実月一回の集會に必ず出席なさる努力は、全く多くの犠牲を伴う

ものである事を、深く思い知らされ、どんなに頭をさげても、さげきれぬ思いである。
時に夜ふけまで続く集會を重ねて、ほぼ全委員の意見の一致をみるに到つて、こゝまで来た。しかし、今、自分としては出つくした感のある新定款案を前にして、
要は運営であると切に思う！
要は運営する人の心であると切に思う！

水清ければ魚棲まず。
清濁合せのむ。

という諺がある。大西の考えは理想にすぎぬとの忠告をよく受ける。しかし、水が激めば、メタンガスが発生するのではなからうか？会員に選ばれた執行部である筈が、ややもすれば会員遊離の現象を来たすのは何故であろうか？執行部の末席をけがして、たつた二年の私に対してさえ、あ、その考えは会員不在だと手厳しい批判がとぶ。ハツと気がつく、いかにも、その通りと思う事がある。あな、おそろしや！かかるがゆえに私は思う。
(1)なるべく多くの人が執行部を替る替る務めるのがよい。
(2)もういいかげんにといわれながら、三大同窓会のカベは厚いのは何か。
(3)若い世代にバトンタッチするのはそれなりの基礎をかためねば。
(4)日本女医学会独特の仕事をして、存在価値を世に確立するのはいつの日か？

定款委員をお受けして

川口正子

昭和五十二年十月会長から委員の委嘱を受けました。日本の南北遠方の各地から飛行機でご参集する方も多くお出かけの節は全く万障くり合せの事と存じますが、実に熱心な討議がくりかえされました。午後二時から夜十時まで休みもなく討議して、みななくたくたに疲れた事もあり、またどなたも私利をすてて日本女医学会を受ければこそ物心両面の多大な骨折りをあえてするのだとつくづく思います。日本女医学会は今でも脱会者が後をたたず是非時代に適應した立派な定款をつくり入会してよかったです。この後は施行規則の方も仕上げ、早く総会を持ちたいものと私達は今一步と頑張っている所です。

昭和五十一年度 日本女医学会 学位取得者一覽表 (敬称略)

昨秋学位取得者について、全国の医科大学に調査方ご依頼いたしましたところ、四十校から八十四名のご解答を得ましたが、そのうち日本女医学会会員としてご入会の方は十六名という結果です。なお、未加入の六十八名の方にはご入会のおすすすめを書状にてお送りしました。
學術部



Table with 5 columns: 支部名, 氏名, 卒年, 出身校, 論文名. It lists 20 members and their research topics, such as '体外循環系血液の検討' and '糖および電解質の変動について'.

定款委員としての雑感

小出つる子

昭和五十二年六月より、より良い定款を考えるための一員として、毎月上京し、各委員の熱心な意見交換と発言に感心し、六法全書や、各方面の定款の集積も手に入れ、皆様と共に猛勉強中です。今まで約半年、フリーな討論のうちの珠玉と思われる良い点をまとめ、そろそろと草案がかたまりはじめました。今後は逐条審議となり、三月頃までには何とか意見が出そろうのではないかと、というような空気を感じております。

わかりますし、また前回の改定版定款をみても苦心のあとがわかります。しかし時代の流れと共に内容も変つていきました。変るべきものですが、現在我々の苦心がまたよりベターなものが必要する時があらば、またまた改良にはやぶさかではありませんが、少くとも現時点ではベストをつきたい。それには、自覚と努力と苦心だと思ふ。

今後委員はなお勉強し、理事は姿勢を正し、良い定款が総会で承認され、それを守り。会員であつて良かったと思える魅力ある日本女医会となつて頂きたい存じます。

ある地方で、県の役員に女医会より推されて職につき、自身の出費と時間のやりくりを覚悟して、毎回正しく出席しておられる女医さんがおります。その人のお話をききましたら、『時には、出かけるのがつらいなあと思ふときもあります。しかも末席で、あまり発言することもありませんけれど、これは私個人が出席しているのではない。女医会が坐っているのだと考えて、疲れても、夜おそくてむくなくても、会議の動向が如何になるかをメモしたり、女医会員ならこういうときはどう処理することであろうかとの思いを記入したりしております。』とのご返事で、誠に心服の至りでした。しかもその人はまだ若い女医で、ご自身も副院長として激務があり、院長としてのご主人も、入学をひかえたお子様達も充分理解し、協力し合つておられ

六法全書を開き、各方面の定款を並べ日本女医会名簿の冒頭にある古くからの定款を集めて見比べていますと、はじめに日本女医会の定款を構成した諸先輩の苦勞がしみじみと

る様子で、頼もしい方もあると頭が下がりました。

今後もこういった責任感のある後進の方々にも、日本女医会の発展に力になつて頂きたいと考えている次第です。

Circular Letter No. 49

Dec. 1977

国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

メリークリスマス及び幸福で健康なる新年をむかえる様。
Thieme会長の重要な情報を含む興味深い手紙を同封します。

国際女医会第一六回国際会議の Preliminary Program はドイツ会議本部より各国に送られた。まだ受け取られない方々にはウイン本部に知らせ下さい。

アストラクトを送られた演者は全文を本年四月十五日までに次の住所に送つて下さい。

Dr. Hedda Heuser, Brunnensteinstrasse 13, D-8023 Oberaudorf /Inn, Fed. Rep. of Germany.

学術委員会が直接、演者にプログラムの順や演説の時間を知らせます。

Martha Kyrle, Hon. Sec. M. W. I. A.

Thieme会長の手紙
・メリークリスマス及び幸福で健康な成功の多い新年をむかえる様に。

の本の発行が可能となった各国の寄付、特に日本女医会による多大なる寄付に感謝する。
・国際女医会の地域分布はあらゆる点からよく討議されましたが結論は次のばされました。

・ Alice Chenoweth, U.S.A., Chairman of Public Relations and Publicity Committee

M.W.I.A. Pamphletの書きをDRのために作り、Dr. Moranが作られた"Green Leaflet"の代りになり、国際女医会の最も新しき情報となります。

・ 昨年七月二日、ストックホルムにて同僚 Leone Hellstedtの死は我々に深い悲しみをあたえた。彼女のための祈禱はベルリン会議で行われます。

・ 昨年六月一日〜五日の間に開かれた国際女医会北ヨーロッパ分科会にも出席しました。一五〇人の出席者にて会議は大成功でした。

・ 一九七七年七月、英国女医会の七十五周年の二日間の会議にも出席しました。

・ メキシコ女医会の第二回会議にも昨年十月十四日〜十六日、にも招待され開会の演説と学術ペーパーも読みました。二〇〇人の出席者で非常によく企画され、新聞にもさわがれました。一九八二年に国際女医会をMexicoで行う様、最新式の Facilities(同時通訳、等)を誇る新しきコングレスホールも見学しました。その時新しき会員五十人を得、一九七

・ 故 Leone Hellstedt, Sweden, Minerva Buark, U.S.A., Isobel

七一九七八年分の国際女医学会費を頂き、ベルリン会議にはメキシコより一〇〇人も参加する予定です。
 ・メキシコの後にはガテマラに行き、大地震の事を知り、四十人の同僚の歓迎を受けました。

十一月にイタリア女医学会にも出席し、帰りにGenevaに寄り、WHO国際女医学会代表 Anne-Marie Schindlerと一緒にWHOに行き、WHOとM.W.I.A.との間を支持する密なる協力が可能をNGO, Chief Coordinator, Dr. Christensenと相談した。

・WHO自身は計画を立てないが、その国の政府の計画または他の特別の計画を、もっぱら支持する。M.W.I.A.には次の様な協力が可能である。
 (a)我々加入国はWHO地域指導者に接し、その国ごとの様なWHO計画があるか、またはどの様にしてお伝えが出来るかを聞く。

(b)その地域のWHO事務所に行き、後進国の計画を支持した加入国はWHOより財政上の援助を得る可能性あり。
 WHO地域指導者の名前と住所は省略する。

・WHOは一九七八年に主なる健康の注意を主題にした国際会議をAlma-Ata, U.S.S.R.にて九月六日～十二日の間に開催する。

各国女医学会にはこの議題が重大であるから案を出すといふ。我々一九八〇のテヘランにおける国際女医学会第十七回国際会議の議題—先進及び発展途上国における医療の優先権に

関係深いのである。

一九七七年十一月二十三日、Dr. Salas, Philippines. 国連人口問題基金の指導者と討議した。国際女医学会の家族計画に財政援助をする事を約束した。

例へば日本女医学会が家族計画会議 (Manila, 1975, Calcutta, 1977) を開催した場合には Dr. Salas 又は Theme 会長に相談すること、しかしアフリカやラテンアメリカの国々の方に優先権をあたえたい、)のDr. Salasの家族計画の財政援助は国際女医学会の利益のため、多に利用するとよい。これ等の活動、計画及び企画は加入国のレベルで行う事。

・発展途上国の同僚達が医学の専門教育研究科にドイツ政府が Fellowship を出す様です。申し込みは Theme 会長に出す様。

一九七七年十二月十四日ヨルダンに行き、始めてこの国の女医達と話し合う事になります。

・ベルリンにおける国際会議のプログラムを受け取ったであらう。会議全体の同時通訳はフランス語、スペイン語とドイツ語である。残念ではあるが日本語の通訳は開会の時だけです。これは通訳料が高いからである。

多勢の皆様の参加を希望しています。一九七八年がよい年で、共に努力して我々の仕事及び目標を実現しましょう。各々個人のエネルギー、約束、援助により世界の医療をよくする事に奇与する。発展途上国は我々の援助を必要とす。M.W.I.A. これに誠意をもって応じる事。

Helga Thieme
 国際女医学会会長

ハワイの旅

その二

◎ Honoluluの空港から、三五分の飛行で「ハワイ島」に着きます。ハワイ諸島中最大の島で、四国の半分よりやや大きく、オアフ島の七倍もある。火山の島、蘭の島といわれる通り、ここには富士山より高い、四〇〇〇メートルを越える山が二つもあり、

神奈川 稲生 裏

また活火山で世界一の火口をもつ(火口が一三もある)一三〇〇メートルのキラウエアイキがある。一九五九年大爆発があり、その後もちよいちよいやっているらしく、住宅地から完全に離れていますのでハワイの人々は少しも恐れず面白がって見に行

連絡書記からのお知らせ

でない同伴者も、同様、氏名、住所をご連絡下さい。

本年八月二十七日から九月一日まで国際女医学会第十六回国際会議がベルリンで開催されます。国際会議参加旅行に関しては、先般誌にご案内した通り、日本交通公社と阪急旅行社のコースを日本女医学会推薦コースとしております。それ以外のコースを有志でグループを作ったり、お友達と、または個人で参加なさることは結構ですが、国際会議に参加する女医は日本女医学会員でなければならぬ規則がございます(国際女医学会規約)。したがって、どの方法で旅行なさろうとも参加者の氏名、住所は国際連絡書記が把握してなければなりませんので必ず日本女医学会本部へご連絡下さい。なお女医

今回の国際会議には同時通訳が行われることになっておりますので、その費用の一部を負担して頂くこととなります。(日本女医学会本部と参加者で負担。一人当り二千元)
 また国際本部から本部の財政上の不如意から参加会費全員に対して一人当り十ドル、または十ドル相当の品物の寄付を要望して来ましたが、品物の場合は会場で即売して基金を作るそうです。以上ご了承下さい。品物をご持参の方は各自でお持ち頂きますが、現金でご寄付なさる方は、同時通訳費、雑費、寄付と併せて五千元を各自旅行社にお支払い下さい。

国際連絡書記 佐野アヤ子

くそうです。噴火してはいない時は蒸気と煙だけです。凄味はなく、火口一帯をバスで廻れる様になっています。またこの島にはアメリカ第二の牧場があり、個人所有ではアメリカ第一との事、東京二三区の二倍位あり七万二千頭の牛馬羊が散らばってどこにいてもいるのか分らない。

西岸の「コナ」はコーヒーの産地、東岸の「ヒロ」は蘭の産地です。蘭の花は七〇〇種類位あり最盛期は七月とか、蘭園を見せて頂いたが全く素晴らしい。レイを作っている所もあり、日本などでは珍重されるあの蘭

の花を一晚で駄目になるレイに作るのですから驚きです。

「プナルウ黒砂海岸」にも行きましたが、溶岩が冷い海水に急にふれて細く砕け、さらに水に洗われて黒砂の様になった海辺はココナツツの林があり、白砂の海岸ばかりみていた私共には誠に珍しい光景でした。

ハワイの地には温泉も湧かず海草や貝もないのです。これは噴火で出来た島なので、地下六〇〇〇メートルまで岩石だけ、その上に四〇〇〇メートルの山となると一萬メートルの高さの岩石の厚さになる。

◎カウアイ島

庭園の島といわれ東京都の面積位とか、また佐渡の一倍半ともいわれている。人口三万一千人、内幸は日糸人。オアフ島を除くと日本人のよく訪れる島です。特にこのシダの洞窟には年間五五〇組もの日本人結婚式があるそうですから妙なものです(他の外国人はそんなにない)。

ワイルア州から観光船で約五キロ。五〇分で「シダの洞窟」へ着く。船内でポリネシア系の男女がウクレレを中心に歌ったり踊ったりしてくれ、また国際色豊かな客全員を立たせて踊りをマスターしてくれる。ハワイへ来ているという実感がこもる。下船しジャングルの中を歩いて五分で洞窟へ着く。ひんやりとしている。洞窟の中にお客が入ると下でハワイアン・バンドが演奏してくれる。光景は実によい、すべてを忘れる。

◎ワイメア峽谷

カウアウ島最大のハイライト、リトルグランドキャニオンの名称もあり、展望台は標高一一五メートルの高地、巾一五キロ、長さ一四キロの大峽谷の圧巻は岩肌の色です。赤茶けた色で一寸日本で見た事もない山肌です。ワイメアとはハワイ語で「赤い水」の意とか

◎ハナレイ海岸

とても素晴らしい美しい海岸にてホノルル在住の金持の高級別荘地との事、地中海クラブにてデラックスな昼食を頂きながら眺望し、卓球を楽しんだりした忘れぬ場所です。

◎オアフ島

アロハの島、東京の七三%の面積で三番目の広さをもつ、ハワイ諸島の玄関ホノルルがあり、政治、経済、文化の中心地、人口七〇万の所ホノルルにその半分が住む。

ホノルル市は広島市と姉妹都市である。マイアミビーチに臨む高層ビルの林立には目を見はる。

一日目は午前中市内観光をして(アラモアナ公園、パンチボールの丘、ヌアヌバリ等)

午後は病院見学(クワキニ病院といい、日本の中級病院です)に行く。夜は「ハワイアン・ハット」のデイナーとショーを楽しむ。

二日目はオプショナルツアーで「シリライフパーク」へ行く。(水族館や「いるか」のショーがあり日本の「江の島」の様などころ。(約半数参加。他の半数は海水浴をしたりショッピングを楽しんだり等)

土産品としては

パイイヤ 黒珊瑚の装飾品
アイスクリーム ムームー
アンセリウム アロハシヤツ

コナコーヒー モンキーポッド
木彫り マカデミアン・ナッツ
チョコレート

帰る頃にはカラフルなムームーにも馴染み一人の落伍者もなく「なんてすばらしい一週間だった事よ」の連発ではれやかに帰りました。幹事の佐野アヤ子さんにはタンケタンケ

(終)

「日本女医の実態調査」

報告書を上梓して

柳瀬路子

一九七五年にはじまった国連の国際婦人年への協力事業として行いました「日本女医の実態調査」報告書を昨年十二月刊行いたしました。会員諸姉のお手許へ発送されますのは少々おくれで総会書類と一緒に届くことと思われませんが、送料節約を考えた結果ですのご寛容下さい。二期に亘る事業部の調査委員の方々のご苦勞は大抵のことではありませんでした。しかし一〇〇頁にまとめた報告書を手にしてみると「やってよかった」と思います。日本女医の一期の実態として尊い文献になると思います。

最初提案した理事会では予算で手痛い反響をうけ、コンピュータにかける費用がなくて東邦大学額田教授のご好意にすがって難場を切りぬけました。仕事の当初においては、東京女子医大の石井教授に種々相談にのっていただき、それから厚生省大臣官房統計情報部へよく通いました。調査室長の上田フサ博士と西野事務長が本当に良い方で何から何まで面倒をみて下さいました。一年目の目標は国際女医学会東京会議に演題として英文にまとめることで、二年目の目標は全文の報告書を作成すること

でした。予定より半年程おくれでしたが何とか予定にそって報告書を出すことが出来、肩の荷を下ろした感じでございます。

ご協力をいただきました方々の中、会員の皆様には報告書をお送り出来たのですが、無記名でお願いしたので、お目につけられない方が多あります。多くの方に役立てて頂きたいのが念願ですので、ご希望の方には送料をご負担願えれば、残部のある限り差し上げられると思います。各支部で未加入の女医さんに報告書の出たことをお知らせできれば幸甚です。

先般、会誌で仙台の安倍支部長より英文の報告書を出すようにとのご示唆をいただきましたが、私もその希望を前から持っております。日本文だけの発表では仕事にならない。ということとは医局時代から恩師に良く注意されてきたことですので、出来ればベルリン大会に持ってゆくの最も時機を得ていると思われまます。もし会員の皆様にご希望が強くれば費用のことは、どうか少し強行してみたいとも思っておりますので、お考えをお聞かせ下さい。寄せられたアンケートを拝見して

感謝いたしましたのは、対象が女医さんだけあって記載が整然としていたことでした。中には、四頁の中、二頁を折ったままご覧にならなかつた八十歳のお年寄りもありましたが、アンケートをお寄せ下さる熱意には頭が下がりました。無効としたものはわずかに十通位でした。

調査を行うに当たって、医療関係・婦人労働関係の既往の統計を探してみました。女子の統計で目星しいものは少なく、殊に知識階級の職場の統計は皆無にひとしい事を知り驚きました。もっとも知識階級の職場への女性の進出は歴史が浅いのですから当然のことでしょうが、また、他方にも、一昨夏の国際女医学会東京大会の討議の折「各国女医学会で女医の実態調査をすること」という提案が時期尚早ということと否決されたことを考えますと、開発途上国は、さておき、先進国においても日本程、人口統計がしっかりしている国は少ないのではないかと。またこうした地味な仕事に手をつける人も少ないだろう——という感を深くしました。

その意味でも、本報告書は日本女医学会が誇って良い仕事だと思っております。

男尊女卑の因習の色濃き時代に、女医の道を開いて下さった、先哲、吉岡弥生先生が後年女医の結末の為にお作りになった日本女医学会。その女医学会が創立七十五周年に当たって、ささやかな日本女医の実態調査をいたしました。私共の報告書は貧しい

ものですが、後につづく優秀な方々が十年後、二十年後に立派な調査をなさって、日本女医の発展過程を記録にとどめていただきたいと願ってやみません。

昭和五十年代の日本の女医は、表向きは男女平等であっても、官界並に勤務医においては、いまだ是正し主張せねばならぬことが多々あるようです。これらの実態をふまえて、日本女医学会も清新な活動をはじめたいものです。

本調査に協力された有効回答五〇八四通の中、日本女医学会員は三八%

一読をおすすめしたい詩集

細川宏遺稿詩集「病者・花」

久保田くら

昭和五十三年一月二十九日の朝日新聞の天声人語に、解剖学の分野で多くの業績をのこした細川宏氏の遺稿詩集「病者・花」をよんで、という書き出しで、故東大教授細川宏氏の詩集に対する書評が掲載されていた。この書評は、私などが仲間意識でよみ、一字、一句に胸をつまらせ、涙を流しつつ書くようなはじめじめしたものでなく、客観的でかつ著者の心の真髓をピタリと把握したすばらしいものである。それをここに転載させていただきます。

でした。現在日本の(一九七五年)医学校は、女子校一、男女共学校七十でありますが、戦前からの女子校を五校除いた男女共学校六五校でも女子の卒業生数は一校三七名——二二八名あり、一校平均一一一名を数えます。各校出身の女医さん方にご入会いただいで全医学校の卒業生を網羅する名実とも日本女医学会に発展することを祈って止みません。報告書の刊行をご報告申し上げますと共に一言所感をのべさせて頂きました。

(五三・三・三)

§

解剖学の分野で多くの業績をのこした細川宏氏の遺稿詩集「病者・花」を読んだ。

全身に転移したがんのため、四十四歳の若さで死んだ細川氏は、死の直前まで「石に咬(かじ)りついても早く治らねばならんぞ」と書き続けた▼東大医学部の教授だった故人が、がんにむしばまれていたことを、知らなかったはずはない。しかし最期まで、それを口にしなかった。感動的なのは、

氏が死を覚悟しながらなお病魔とのたたかいをあきらめず、「生命の尊厳」を信じ、それをうたい続けたことだ▼一息吐くのにも精一杯の力がいるという絶望的な病苦の世界にあっても「苦痛のげしい時こそ、春を待つ細い竹のしなやかさを思い浮かべてじっと苦しみに耐えてみよう」と書き残している。超人的な忍耐力である▼この遺稿は病者と健康人をへだてる高い城壁のことを訴えている。この城壁のために、両者はその感受性やものの見方、判断の仕方にもへだたりができる。細川氏は恐らく、病苦にゆれる患者の心、病者の心をこの世に書き残しておきたかったのだろう▼そこから何を学ぶかは、健康な人々、それに医師や看護婦のつとめだと思いたい。死の不安と闘いつつ生を願う患者の心、訴えを現代の医療はどううけとめるかの問いかけだ▼細川氏自身「もし医師が不治の病を宣告するとすれば、その後の毎日を、どうその患者と対話し会話を交わしていくつもりか。それだけの人間的力量をはたして医師に期待してよいものか」と問いている。死力を尽くして、がんと闘った氏は「石に咬りついても」と書いてから十二日目、静かに息をひきとった▼

§

細川さんは学問的にも人間的にも立派であつたので期待されることも

大きかった。昭和四十二年一月なかば、四十四歳の若さで亡くなってしまったのは極めて残念である。病というものは余りにも残忍にすぎると思えてならない。「医学は進歩した」というが、目のあたりの病を征服できないのはどうしたことか、無念一人の思いである。細川さんとは学会での永いつきあいであつたがその間、私が短期間日本解剖学会の庶務幹事をしたので毎月一回の理事会にとも

気軽にスポンサーをおおせつかり、お好みのオレンジ・シャーベットを食べながら雑談に花を咲かせることもあつた。老眼鏡を欺く私に「西洋のおばあさんのような」などとユーモラスな慰めの言葉をかけてくれる優しい方でした。然し、話が医学教育の中の解剖学の役割等におよぶと

昭和初期の日本女医学会

橋本恵美子

ルーツばやりの昨今です。日本女医学会のルーツについては昭和三十七年九月十五日発行の「日本女医史」がくわしくその歴史を伝えているのでここに多くを触れる必要はありませんが、たまたま「大阪医学史メモ昭和初期(大阪府医ニュースに掲載中)」の中で日本女医学会と関西支部総会設

きはきまつて「人間の構造をよく知っていれば、すくなくとも「ヤブ」になることはない」ときつぱりいえるのが常であつた。昨今この言葉のもつ重み、深さ、きびしさを思うことしばしばである。

著者は病を得てから、患者としての心情や病に対しての感想を、迫りくる病魔を押し倒おさんばかりの勇気をふるいおこしつつつかいたこの詩、命がけて書いたこの詩を、読む人が感動せぬはずはない。そして著者が亡くなって十年になろうとしている今、遺稿が編集されることもまた心あたたまる思である。

医に志す方々は勿論、汎くみなさんのご一読をおすすめしたい。著者 細川 宏 編者 小川鼎三 中井準之助 発行所 現代社価一〇〇〇円

立当時の有様が記載されました。以下その内容を適宜抜粋してみま

した。会員諸氏に日本女医学会の「重み」と、その真に目指すところ、を改めて見直して頂ければ幸甚です。

昭和八年六月、中之島の大坂ビル八階で日本女医学会関西支部総会が開

かれた。この総会には三つのポイントがあった。①支部総会、②大阪女子高等医学専門学校第一回卒業生全員の入会歓迎、③「日本女子体質に関する研究」で東大より医博を授与された竹内茂代女史の講演会であった。来会者百五十名に達し、大女医専第一回卒業生八十三名、大女医専第二交代校長、前田鼎氏も当然出席した。

まず関西支部長、福井繁子氏が開会の挨拶を述べ、新女医を歓迎するとともに京都、滋賀、福井、四国などより参集のほか、東京より吉岡弥生会長、多川すみ、杉田つる子、竹内茂代各姉の参加のあったことに感謝の意を表した。橘薫幹事の会務報告のあと、吉岡会長は、「本会は明治三十五年の創立で、前田ソノ子氏の発起により、当初の会員は五十名にすぎなかったが、現在は二千名に達している。国際女医学会のメンバーにもなった。女医の研究機関たるにとどまらず、職業的統制をもつ団体的機関としての性格をもつ。今後各府県に支部をおき、強固な組織団体としたい」と述べ、多川氏は女医会雑誌について報告、ついで来賓の前田校長が祝辞。本校卒業生八十名を新会員として、女医会が歓迎会をして下さって、学校長としてお祝いとお礼を述べる。

卒業生は私の子のようなものである。私は医学に携っているが臨床医ではなく、医師の団体については知らず、女医会についても多くを知らない。最近の医師が自分の利益ばかり考える傾向にあるのは残念で、常々生徒にもその点注意している。吉岡会長が再び立って「私は女医の社会的発展にかなり意を用いている。大女医専卒業の皆さんは喜びとともに将来の不安もあると思う。大女医専創立者の浜地先生（故浜地藤太郎氏、大阪市内で浜地耳鼻咽喉科病院を経営）は「私の学校は女医を作らない」といわれたことがある。前田校長の教育方針もよく承りたいが、私は卒業後三、四年母校その他で研究するのがよいと思う。その間は女医だという顔をしないこと、看護婦のすることはなんでも手にするよ。女医の服装を統一したら、という意見があるが私は反対である」と述べた。

を許可された学生達は真面目に学んでさえおれば洋々たる前途は黙っていても広げている。ただ何となく物足りなく感じるとすれば「自分は何のために医学を選んだか」という自己反省あるいは使命感の欠如……がより多く目につくからでしょう。

ともあれ医大の新設による医師増しかも最近の傾向として、これら新卒医師（男女を問わず）は勤務医で通そうとするものが多いというアンケート調査の結果が出ています。今年度の日医代議員会でもこの勤務医対策が提案された由、というのものと、勤務医会と開業医主体の日本医師会との間に時として意見のぐいちがいが起り、勤務医会の日医ばなれ？を心配しての提案でありましたが、日本女医会もその意味において当然勤務医対策を事業計画の中に折りこんで、健全なる会員数の保持をはかるべきでしょう。日本女医会の過去を知り、その精神と目標をしっかりと胸に叩きこんで今後の進むべき道を思考することこそ吉岡元会長及び当時の開拓者諸先輩に対する私ども昭和の中期に生きる女医の使命ではないでしょうか。（S53・4・13）

続いて神戸の野間女医ら各地代表の祝辞のあと、先日東大より医博を授与された竹内茂代氏が立ち、謙遜のうちに堅実な内容で満堂を感動せしめた。同氏が東京女医専卒業（明治四十年）のとき、婦人の職業の可否について問題となったが、臨席の大隅侯が「十年の時をかせ」といわれた。責任を感じて勉強に励んだとこのことであった。

日本女医会を創設し女性の地位向上に身を削ぎ血をそいで努力された当時の女傑達に比べて現在は何とも恵まれた環境下において勉学にいらして下さる学生諸姉でしょう。成程受験はきびしい。けれども入学

常任理事会議事録

日時 昭和五十二年十二月二十四日
 日(土)午後二時十五分～四時
 場所 至誠会館 四階会議室
 出席者(敬称略)
 三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、森川、守安、柳瀬
 欠席者(敬称略)
 川那部、丸山

庶務報告 久保田常任理事
 11月26日 常任理事会、理事会を
 行う

12月7日 全国医科大学四七校へ
 女医の学位取得者調査
 を依頼する

17日 定款委員会を行う

18日 前進座観劇会を行う

渡辺美智雄氏より厚生大臣退任あいさつ状あり

石本茂氏より厚生政務次官退任あいさつ状あり

故染矢三九先生ご遺族より香典の
 礼状あり

寄贈本・パンフレット、その他
 婦人展望 全国婦人新聞 世論
 時報

国立婦人教育会館のパンフレット
 関西医科大学同窓会、東京女子
 医科大学同窓会より各会員名簿
 年末年始の日通航空主催海外旅行
 は、九名参加の予定

事業部報告 柳瀬常任理事

(a)前進座観劇会は成功裡に終了し
 金一、一五三、六八〇円の収入
 をあげた。寄付金は返す。
 (b)女医の実態報告書は十二月二十
 六日に出来る。

会計報告 守安常任理事
 別紙のとおり(十一月分)
 (a)前進座収益は雑収入のその他の
 科目に入れる
 (b)大橋リュフ先生から二十万円の
 寄付をいただく。

科目は寄付金の一般寄付金に入
 れる。大橋先生が病気なので、
 梅津隆子先生に相談の上、花を
 さし上げる。交際費より支出する。

理事会議事録

日時 昭和五十三年一月二十八日
 (土)午後三時二十分～五時二
 十分
 場所 京王プラザホテル 四階宴
 場の間

出席者(敬称略)
 三神、小俣、山崎、久保田、中川、
 野沢、福永、松岡、丸山、森川、
 守安、柳瀬、尾中、大西、大原、
 川口、川島、佐野、佐藤、鈴木、
 竹内、野中、橋本、蓮井、平瀬、
 藤井、八木、山口、山本、白浜、
 添田

欠席者(敬称略)
 川那部、稲葉、野呂、福島、藤田、
 森

旧編催しました前進座の観劇会につきまして、東京在住の会員並びに役員の方には、一方ならぬ協力をいただきありがとうございました。会員の声もありましたので理事会にはかり、その純益金を「国際女医会第十五回国際会議記念事業基金」に繰り入れ、有効に用途を考えることになりましたのでご報告申し上げます。

事業部

開会挨拶 三神会長
庶務報告 久保田常任理事

12月17日 定款委員に委嘱状発送、定款委員会を行う

12月24日 常任理事会を行う
1月21日 定款委員会を行う

国際労働事務局東京支局(ILO)支局長 海老塚政治氏昭和五十二年十二月三十一日付退任し、工藤誠爾氏昭和五十三年一月一日付支局長に就任の挨拶あり。

寄贈本 パンフレット その他
全国婦人新聞、光のプレゼント

ニユース、浴風会ニユース、神戸大学医学部会員名簿、世論時報十二・一月号

会計報告 福永常任理事
別紙の通り(十二月分)

議題
一、本年の総会について
日時 昭和五十三年五月二十八日(日)午後一時より

場所 京王プラザホテル
講演会 一時〜二時
講師 国立婦人教育会館長

縫田瞳子女史を予定
総会 二時〜五時三十分
懇親会 六時〜八時
評議員会 十時〜十二時

京王プラザホテル
二、研修会開催について
学術部担当にて一年一回講演会開催

可決
五十三年は秋に開催
場所 国立婦人教育会館(東上線武蔵嵐山駅下車)

予定
講師 吉岡弥生賞受賞者他小出つる子女史耳鍼(案)の予定

三、各部予算申請について
事業部 女医の実態調査 一二五万円
柳瀬常任理事

学術部 奨励金 三十万円
講演研修費 三〇万円
吉岡賞審査関係費 二万円

森川常任理事
広報部 会誌(印刷・送料) 二〇〇万円(五〇万×四回)
集会費 二万円

野沢常任理事
渉外部 二五万 中川常任理事
庶務部 会計に一任

松岡常任理事
各部毎に集会費二万円 妥当
国際女医学会報告 佐野国際連絡書記

国際女医学会費
国際女医学会本部より会員二、〇〇〇名分の請求あり。現在日本女医学会員数二、五二九名(但し昭和五十二年度分会費納入者)。山梨の総会において、国際会費に関し長時間検討の上現行のとおりに決定したのを二、〇〇〇名分に減少させるについて安易にきめていかとの質問あり。本年の総会において、これにつき、三神会長が会員に了解をもとめるのが本筋と決定。可決

ベルリンにおける国際会議出席申込者数
日本交通公社七七名(A一三〇名 B一〇名 C一三四名個人一三名) 交通公社コースは四〇名で切。

阪急交通社五九名(A一七七名 B一八名 C一四四名)
同時通訳をつける事に對し、二八〇〇(約七十万円位)位
同時通訳 講演英独仏語訳無料
和訳二八〇〇\$ (一名分約一万円相当)

来々期トピック・テーマ採択
該役員の藤井儂子理事に一任諒承
学術部報告 森川常任理事
吉岡弥生賞候補者 四名
学位取得者 昭和五十二年度八四名、うち会員一六名
名、うち会員一六名

松岡常任理事
日本女医学会勸誘状(新卒者向)庶務作成の文案提示。各大学教務課宛に発送 承認
定款委員会報告
委員会経過報告の要あり、二月の臨時理事会開催を要請。二月二十五日(午後三時開催)と決定。
寄付その他
大橋リユフ先生より金二十万円ご寄付受く。
病氣見舞に花贈る。
国立婦人教育会館公開講座あり。
五十三年二月四日(午後二時〜四時)「これからの教育」
講師 永井道雄先生

理事会議事録

以上 大西保乃
野中久子

日時 昭和五十三年二月二十五日
(午後三時二十分〜五時二十五分)

場所 至誠会館 四階会議室
出席者(敬称略)
三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、大西、川口、川島、佐野、佐藤、鈴木、竹内、野中、野呂、橋本、蓮井、平瀬、藤田、山口、山本、白浜、添田、欠席者(敬称略)
川那部、尾中、大原、福島、藤井、八木、森

開会挨拶、三神会長
庶務報告 久保田常任理事
1月28日 常任理事会、理事会及び理事新年会を行う
日本女医の実態調査報告を理事役員に配布する。

2月15日 東京女子医大新卒者に對し当会入会の勧誘状を配布
2月18日 定款委員会
2月20日 日本女医学会誌第73号を発送
2月21日 全国医科大学新卒者に對し、本会入会の勧誘状を発送
その他

寄贈本 パンフレット その他

全国婦人新聞、月刊前進座、病院ボランティアだより、クリニクマネジメント、ボイス、天の墓標(日本キリスト教救済協会より)一月の理事会議事録の訂正
国際女医学会のトピックテーマに關して来期を来々期とする。

会計報告 川口理事
別紙のとおり(一月分)
前進座収益金について種々検討の結果、一〇〇万円を記念事業の項目として別にする
庶務予算について宛名機等購入決定次第来々期までに提出する。

議題
一、定款改正について(別紙)報告 山本理事
定款のみに對しての定款委員会案について定款委員会委員長山本理事から経過報告あり、各条項について橋本副委員長より説明あり、慎重に審議せねばならぬ事であるため、各自よく検討し次会に審議することに決定。
二、事務職員勤務規定について 松岡常任理事
職員就業規則案 庶務部起草(別紙)
十人以下の職員の場合は就業規則がなくともよいことを考慮にいてよく検討されるよう説明、次回理事会で審議する事に決定。
三、その他
(a)国際女医学会について
ドイツにおける国際会議に日本語同時通訳をつける事に對し、二

八〇〇ドル(約七十万円位)の経費の半分を日本女医学会の負担とする 決定

出席会員にその旨を記しぜひ会議に参加されるよう旅行社から通知すること。

旅行コースについて

日本交通公社Cコース満席ノ切

〃 Bコース(スペイン) 人数不足のため勧誘してほしい。

阪急交通社 北欧コース キャレンセル(人数不足のため)

ドイツ旅行参加者説明会 五月二十七日(土)午後三時至誠会館四階会議室において行う予定

参加者は登録費を三月三十一日までに支払うこと

登録費 八万円

女医の先駆者の伝記について出版費の協力を際し完成のとき若干冊寄贈を本部に申し出たことに對して、日本女医学会への寄贈は出来ない。ベルリン会議で一冊二十〜二十五ドルで購入してほしい旨本部から通達あり。

(b) 学術部 森川常任理事

「学位取得者中、会員外の方に本会入会の勧誘状發送することは去る理事会に報告済みであるが、四月以降の方がより効果的と考え四月以降に發送すると訂正」学位取得者については先月理事会で発表したとおり、東京女子医大十二名、東邦医大一名、日本医大一名、関西医大一名、

京都大学一名 以上十六名

(c) 庶務部

総会について

講演 縫田暉子氏 決定

評議員会 午前十時より

京王プラザ武蔵(昼食)

総会 午後一時〜四時まで

五階コンコード

午後四時〜五時三十分まで 四階花の間

懇親会 午後六時

今回は本部で総会を引き受けた關係上、庶務が事務を担当するようになった。受付事務を学内支部に援助していただき、お土産、その他庶務に一任されたい。 決定

宛名機械(自動式)

十九万八千円 値引一万五千円(付属品も購入のこと)

サンビーム増写輪転機 十五万五千円 5%割引

いずれも現品が悪くなったため購入したい。 決定

(d) 事業予算について

女医の実態調査継続費として 一二五万円 決定

(e) 国立婦人教育会館公開講座について

期日 昭和五十三年三月四日(土)午後2時〜4時

場所 国立婦人教育会館

テーマ おそい目覚めー婦人が社会に目をむけるにはー

講師 秋山ちえ子先生

(f) LOLA VILAR M. D. 著 WOMAN AND PHYSICIAN (スペインの女医)

本部に二〇〇冊あり、希望者にわけたい。 以上

竹内静香 松岡宏子

理事会議事録

日時 昭和五十三年三月二十五日(土) 午後三時〜五時三十分

場所 至誠会館四階会議室

出席者(敬称略)

三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、大西、川口、川島、佐藤、佐野、鈴木、竹内、野中、橋本、蓮井、福島、八木、山本、白浜、森

欠席者(敬称略)

川那部、尾中、大原、野呂、平瀬、藤井、藤田、山口、添田

開会挨拶 三神会長

庶務報告 松岡常任理事

二月二十五日 常任理事会、理事会を行う

三月十八日 定款委員会を行う

故坂根ミツセ先生ご遺族より香典の礼状あり。

寄贈本、パンフレット、その他

関西医科大学同窓会よりおとづれ、大阪府女医会より創立三十周年記念誌、日本看護協会より第十六回国際看護協会記録、婦人展望、全国婦人新聞、ボイス、清風会ニュー

一、ス、月刊前進座 福永常任理事

会計報告 別紙のとおり(二月分) 承認

議題

一、昭和五十三年度事業計画及び予算案について 柳瀬常任理事

(一)吉岡弥生賞

(二)奨学助成

(三)講演研修会の開催

(四)日本女医の実態調査

(五)国際交流

(六)機関紙の発行

(七)へき地診療への助成

(八)公衆衛生、社会福祉への助成

(九)支部助成

(十)その他

(a) 国際女医会記念事業

(b) 収益事業、ルーペンダン、年金収益など

分担

学術部 (1)(2)(3)

渉外部 (5)

広報部 (6)

事業部 (4)(7)(8)(9)(10)

承認

一、吉岡弥生賞審査委員会にて四名の候補者全員に授賞を決定

(a) 社会に貢献の部 二名

松尾周子先生 昭十二年帝國医学専卒(兵庫)

高木松江先生 昭九年東京女子医専卒(中野)

(b) 医学に貢献の部 二名

五島瑳智子先生 昭二十五年東邦医専卒微生物学(千葉)

青山光子先生 昭二十三年名古屋市医専卒衛生学(愛知)

二、荒川あや先生提案

(a) 授賞者は今後三名までと規定する

(b) 五百万円追加寄付

(c) 吉岡弥生賞は特別会計とする

三、吉岡弥生賞を吉岡弥生、荒川賞と改正の案は理事会で次回検討とする。

講演研修会 演者は吉岡弥生賞授賞者とする

支部助成 支部への返還金(会費) 一人分百円を昭和五十三年度より二百円に変更したい 承認

第二十三回定時総会予定

場所 京王プラザホテル五階コンコードルーム

講演 昭和五十三年五月二十八日(日) 午後一時〜二時

テーマ 婦人の生き方

講師 縫田暉子女士

総会 午後二時十五分〜四時

五階コンコードルーム

会務報告

議題

一、昭和五十一年度収支決算

二、財産目録

三、年金損益計算

四、剰余金処分案

五、昭和五十三年度事業計画案

六、昭和五十三年度収支予算案

七、次期、次々期総会開催地について(今回は各部の代表者が登壇し、報告する形式をとる。決定)

四階花の間にて午後四時〜五時三十分まで

本部移転に関する報告 二十分
定款委員会経過報告 四十五分
吉岡弥生賞授与式 十分

懇親会 午後六時より花の間

招待者以外は会費を全会員より徴収する。授賞者新会員からも徴収する。承認
記念品：柄に真珠のついたスプーン一本

予算案につき説明 守安常任理事

。なお、吉岡弥生賞費用不足分六十六万円は荒川あや先生がご寄付下さる。理事会当日の茶菓子は廃止する。承認

二、事務職員勤務規定について 松岡常任理事

。庶務起案の勤務規定案につき検討、特に十四条時間外手当につき種々検討し、事務職員の居残り案と庶務部へ申請案は、次回審議と決定

三、定款改正について

。山本杉定款委員長より経過報告、改正の目的ななく代議員制の意義、構想、将来の展望等につき、熟考の上時宜に合った定款に改正すべく努力中であるとの報告あり
定款委員会案につき検討す

四、その他

(a)日本女医会費の件

自然退会者(会費未納十年の場合)取扱について

(一)三年以内に滞納分を含めて納入すれば継続会員となる

(二)三年以後は新入会員となる 承認

(b)国際女医会について 佐野連絡書記

国際会議中の日本語同時通訳の件、
国際女医会本部通訳料等一人宛五千元の通知あり。
内訳：同時通訳費二千元、連絡費五百円、本部へ寄付二千五百円、しかし寄付二千五百円の代りに十ドルの品物を持参すれば、当日即売し、その売上金を充当するとのこと。したがってベルリン会議出席者は各自旅行社まで五千元を送金する事と会誌に出す

(c)東京都の対話集会 婦人問題を考える

第一集会 四月三日(日) 午後六時〜八時三十分
東京都新宿区民福祉会館

第二集会 四月五日(水) 午後二時〜四時三十分
小金井市農協大ホール

以上
大西 保乃
野中 久子

事務局だより

議事録の庶務報告でお知らせいたしておりました会員動静を今回より別にお知らせいたします。

支部長変更(敬称略)

北区支部長 白倉悦子

江東区支部長 高地孝子

徳島県支部長 上村菜子

静岡県支部長 山内千枝

会員物故者(敬称略)

飯高歳子(千葉)、石島栄子(茨城)、

酒井久子(愛知)、猪熊テイ(学内)、

中沢夕子(静岡) 塩谷正枝(都下) 仲尾 静(栃木) 俵 墨江(京都) 染谷三九(宮崎) 望月と

き子(神奈川) 横田規矩(滋賀)

大和行子(千葉) 馬嶋久美子(佐賀) 坂根ミツセ(島根)、両川きし(岩手)

入会々員(敬称略)

可児弘美(大阪9) 杉山尚子(江東)

大國喜久恵(福岡) 常間地嘉子(神奈川) 坂本備子(江東) 雫 俊子(徳島) 宝角美穂子(兵庫) 杉浦愛子(神奈川) 阿賀俱子(長崎) 原弥栄子(神奈川) 黒瀬千鶴子(葛飾)

岩村トシ子(都下) 野口早苗(京都)

寿満歌子(徳島) 飯塚治子(埼玉)

河野英子(世田谷) 荒瀬諒子(高知)

加藤茂子(広島) 山崎康子(神奈川)

小倉玲子(神奈川) 上野瑠璃子(品川) 岩本淳子(茨城) 松田美重子(富山) 鈴木和子(神奈川)

自然退会復活者(敬称略)

藤沢一子(兵庫) 大重益子(鹿児島)

佐藤喜代子(杉並) 桜井利子(茨城)

宮田幸子(目黒)

退会々員(敬称略)

中島真弓(兵庫) 岸ふみ子(群馬)

荒瀬愛子(大田) 島田梅子(大阪7)

味沢雪子(長野) 大沢真木子(杉並)

伊藤美喜子(杉並) 林広子(三重)

加賀谷菊子(秋田) 前田梅(千葉)

大林幹子(香川) 永山美枝(板橋)

作本カヅ(石川) 泉二登志子(都下)

下条久代(三重) 勝呂伝子(兵庫)

芝崎容子(都下) 小池示治(神奈川)

寺谷綾子(神奈川) 五味ミキ(千代田) 川野アヤ子(都下) 山本節子(高知) 平形京子(台東) 城妙子(大分) 中村範子(大阪) 中村淳子(京都) 今井千代(千葉) 稗田喜代子(江戸川) 森モト(神奈川) 須田モト(神奈川) 石黒雪江(群馬) 大友伸子(都下) 黒田友子(福島) 金山富美子(神奈川)

自然退会者(敬称略)

佐藤キサ(群馬) 真中すゞ子(群馬)

一宮祐子(埼玉) 清水美枝子(茨城)

大谷寿賀子(千葉) 斎藤賤香(千葉)

原マスヨ(大田) 長瀬美良子(北)

石飛アミ子(世田谷) 古屋喜美(中央) 内田百合子(中野) 瓜生八重(杉並) 渡辺延子(板橋) 大久保和子(墨田) 伊藤王子(江東) 高橋陽子(葛飾) 印牧寿美子(愛知) 小原静子(愛知) 林喜久子(岐阜) 山田幸子(岐阜) 芝山美津江(富山) 好地利栄子(京都) 梅田京子(大阪6)

美濃口知代(大阪6) 楠井慶子(大阪8) 吉田泰子(兵庫) 三宅綾子(広島) 河野佐与美(山口) 山本安世(福岡) 橋本玲子(鹿児島)

編集後記

陽を容れて 木蓮合掌

とくぎざし 治枝

毀誉褒貶 なきまま老いて 芽を愛す 治枝

待たれた春がようやく訪れました。地上の生きたし生けるもの皆太陽の恩恵を公平にうけて居ります。木々の新芽も名知らぬ草の芽も一勢にも出てもうすぐ色鮮やかな新緑が楽しめます。桜だよりも南からだんだんに今では関東が真盛りです。冒頭にのせた俳句は二年前第十五回国際女医会議の開催時期の問題で全国に論争がわき立ち、その和解の糸口がやっと開かれる早春に拝見したものです。勿論日本女医会員の先輩先生の句です。双方の緊張が春の陽を受けて融け合った臨時総会の瞬時を思い出します。さて定款委員会も会を重ねて合意のものが出来た様です。しかし非常に重大なことです。委員長も中々に慎重で尚今後も会合はつく事と思います。今回はその模様の端々をのせました。広報部では毎回ながら原稿依頼から編集構成発行になるまで粗漏なき様努力して居ります。が何分とも会員先生方の温かい叱声と御理解ある御協力を願って後記とします。

丸山記

昭和五十三年四月二十日 印刷
昭和五十三年四月二十五日 発行
編集人 丸山 実
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区
社団法人 市ヶ谷河田町19
TEL (31)〇九六八
印刷所 東京都文京区本駒込
株式会社 北斗社